

# 大 学 史 研 究 通 信

第 78 号 2014 年 4 月 30 日 (水)

大学史研究会

第 78 号の内容 : 訃報田中征男先生・第 37 回大学史研究セミナー (於九州大学) のご案内・2014 年度会費納入のお願い・会員新刊ニュース・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・事務局からのお知らせ・退会者の報告・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

## 訃報・田中征男先生

さる 2013 年 9 月 18 日、田中征男先生が逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。

### 田中征男氏の訃報に接して

寺 崎 昌 男

田中征男先生が亡くなられたそうです、それも去年のことだったと聞きました。——事務局の浅沼薫奈さんから知らされたとき、信じられなかった。

訃報は真実だと知ってからは、「これからなのに、惜しい」という気持ちが沸き起こった。氏は 1944 年生まれだから享年 70 歳だったはずだ。「これから」とはおかしい、と思う人があるかもしれない。だがそう思わずにはいられないほど優秀な研究者だった。なのに、20 年以上もの期間、うつ症状に悩まされ、雌伏を余儀なくされていた。病から解放され「全快を医師からも宣言されました」と明るい電話をくれたのは去年の 8 月である。その直後、9 月 18 日に世を去ったという。循環器系の急病だったと聞いたが、元気でいたら今後 10 年ぐらいは大学史の現役研究者として活躍したに違いない。

氏が第一期の大学史研究会で初めて発表したのは、1975 年 1 月の厚木セミナーだった。テーマは『改造』誌上の大学・学生論の諸相一創刊 (1919 年 4 月号) から昭和初期までを対象に「—」で、東大の教育学研究科大学院生だった (ちなみに、館昭、古屋野素材、中野実等の「大学院生」諸氏が参加され始めたのもこの時期だった)。田中さんの発表は当時のセミナーの空気の中ではどちらかというと堅い印象で、何となく畏まって聞いた印象がある。だが着実な資料吟味と行き届いた整理に、若い出席者は大いに感嘆していた。その後、氏は財野間教育研究所日本教育史部門に入り、熱心に出席を続けた。

研究活動を幾度一緒にやったことだろう。野間研を舞台にした洋学教育史や私学教育史研究もあれば『講座 日本の学力』の別巻 1 の「大学教育」の共同編集もやった。それより先、1970 年代初めに日本教育学会を舞台に行なった大学教育の実践研究は、今思えば大学の授業研究あるいは F D 研究に相当する先駆的な活動だった。

氏の業績として忘れられないのは、『大学拡張運動の歴史的研究』(研究所紀要第 30 集、1978 年、講談社) および『戦後改革と大学基準協会の形成』(大学基準協会 JUA 叢書 2、1995 年、エイデル研究所刊) の 2 冊である。

前者は、野間研入所後 3 年で完成された研究であった。「大学開放」は、それまでの教育学では「社会教育」の分野で取り上げられるテーマで、しかも対象は民間の学習運動 (たとえば上田自由大学) に限られていた。田中氏は、それを含みながら、明治期以降の私学が推進した通信教育・校外生制度の普及等を含む諸活動をダイナミックに取り上げ、重厚な筆致も幸いして、広く注目を集めた。紛争後の大学史基礎研究は出始めたばかりだったから、この本は特に高く評価された。筆者は「すぐ博士学位論文にしたら」と勧めたが、指導教官の期待は他のテーマだということで、惜しくも実現しなかった。この研究を機に早稲田の橋静二の業績や「プロテスタント原案」の存在、雑誌『大学及大学生』の意義も明らかになった (のち復刻本の解説を田中氏が書き、浅沼さんが研究論文にまとめた)。

後者は財野間大学基準協会沿革史編纂の渦中で副産物として著わされたものである。1946 年に大学基準

協会ができる前後の占領軍等当局、文部省、その周りに集まった指導的・大学人たち、そして教育刷新委員会等の動向を、これほど広範精細に分析した研究はその後にも出ていない。氏の仕事を見ていて、改めて資料探求の徹底ぶりと文章化のスピードに驚嘆させられた。東大教養学部文科第Ⅰ類の学生800人中確か8番だとかの席次にあったという話は嘘ではないと思ったものである。この文献は当初、大学基準協会会誌に分載されたものだったが、一冊にまとめて選書に入れるように協会にも勧めた。シリーズ中でこの巻だけがたちまち売り切れてしまったと聞く。『大学基準協会 55年史』全2巻（2005年）に対しても、石渡（旧姓野坂）尊子氏と並んで田中氏の貢献は抜群だった。

書けば書くほど思い出が湧いてくる。スタンフォード大学に資料調査に行ったのは80年代の初めだった。平原春好氏と筆者が編集代表になった『教育小辞典』（1982年、学陽書房刊）の精細な索引を作ってくれたのも田中氏だったし、別府昭郎、皆川卓三、田中、寺崎が集まってドイツの「大学の自由」に関する講演録の講演会を開いたのも楽しい思い出である。

寺崎があまり連れ歩くから田中は気疲れしたのだなどと悪い冗談をいう向きもあったようだが、彼は本当に嬉々として、一緒に仕事をしてくれた。

（立教学院本部調査役・東京大学名誉教授）

### 田中征男先生略歴

1944年、東京都生れ。1969年、東京大学文学部哲学科卒業。1975年、同大学大学院教育学研究科博士課程修了。（財）野間教育研究所専任所員を経て、和光大学人間関係学部教授、大学基準協会年史編纂室委員等を歴任。専攻は近代日本教育史・教育思想史。

著書に『大学拡張運動の歴史的研究』（野間教育研究所紀要第30集、1978年、講談社）、共編著に『大学教育』（日本標準、講座「日本の学力」別巻Ⅰ、1979年）など。

（参照：田中征男『戦後改革と大学基準協会の形成（JUAA選書第2巻）』エイデル出版、1995年）

大学史研究会関連では以下のご論考があります。

大学史研究通信(旧版)』第9号(1975年9月)「雑誌『改造』誌上の大学・学生論の諸相—

創刊(1919年4月号)から昭和初期までを対象に—」

『大学史研究』第1号(1979年)「近代日本と私学問題についての一般論」

## 第37回大学史研究セミナー（於 九州大学）のご案内

第37回大学史研究セミナーを以下の場所・日程で開催いたします。

場所：九州大学（箱崎キャンパス）

※<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/index.php>

日時：2014年11月29日（土）、30日（日）

セミナーの主な構成は例年と同様ですが（課題研究、自由研究、総会、懇親会）、今年度は、九州大学箱崎キャンパス見学会も開催する予定です。当日の詳細なプログラムにつきましては、現在調整中であり、次号でご案内いたします。

（事務局セミナー担当：井上美香子）

## 2014 年度会費納入のお願い

今年度の年会費納入についてお願いのご連絡を申し上げます。大学史研究会の実収入は、会員各位からの年会費に大きくよっております。過去の通信に掲載しました会計報告のとおり、昨年度の年会費納入率は 66% であり、未納のケースも少なくなく、本研究会の財政状態は芳しいとはいえません。大学史研究会の発展と円滑な運営のため、会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第です。年会費の納入の詳細につきましては、同封の納入依頼通知をご覧ください。

年会費は 5,000 円です。なお、大学院等在学あるいは日本学術振興会特別研究員の各位には、「院生・学生会費」として 3,000 円が適用されております。また、過年度分年会費未納の会員には、未納年度と本年度会費分を含めた金額総計を通知しております。年会費を 3 ヶ年度分以上滞納されている会員には、研究会の継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまでは、大学史研究会からの諸連絡、「研究通信」、「大学史研究」（紀要）等の発送の停止が決定しております。該当する会員へのご連絡通知には、これに関する事項が記載されておりますのでご留意願います。なお、本通知依頼発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

### —— 年会費納入払込先 ——

郵便振替口座 : 大学史研究会 口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座 : 大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店 (店番 671)  
普通預金 (口座番号 3456109)

(事務局会計担当：山崎慎一)

## 会員新刊ニュース

阿曾沼 明裕『アメリカ研究大学の大学院—多様性の基盤を探る』名古屋大学出版会、2014 年 2 月  
寺崎 昌男・梅村 修 (監修)『追手門学院の自校教育』追手門学院大学出版会、2014 年 2 月  
林 透『高等教育における視学委員制度の研究—認証評価制度のルーツを探る』東信堂、2014 年 3 月

## 『大学史研究』編集委員会からのお知らせ

『大学史研究』編集委員会では、5 月 2 日に編集委員会を開き、それ以降も月 1 回程度の編集委員会を開催する予定です。市販化された 24 号以降特集を設けておりますが、次号 26 号あるいはそれ以降の号に向けても引き続き特集を組んでまいりたいと考えております。編集委員会から依頼がありましたら、積極的に引き受けくださるようお願いいたします。なお、研究論文・研究ノート等の査読につきましては、夏休み中に査読対応が可能な場合、まだ 26 号への掲載が間に合う可能性がありますので、紀要担当 (daishi@home.nifty.jp) にお尋ねください。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

(事務局紀要担当：岡田大士)

## 事務局からのお知らせ

新年度になりました。異動があった方は事務局までご連絡ください。また、今号には会費納入のための払込用紙を同封いたしました。お手数ですが、会費の納入をお願いいたします。繰り返しのお願いになりますが、よろしく願いいたします。

## 退会者の報告

2014年3月末をもって以下の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者： 若松 征男 会員  
井上 琢智 会員

## 編集後記

消費税8%とともに始まった慌しい新学期が、漸く落ち着いてまいりました。学生の就職活動の様子も変わってきたようで、時代の移り変わりを感じる人が多いこの頃です。大学史研究会でも、今号から、事務局封筒のサイズが変更となり、あわせて、本通信のサイズも変更することとなりました。ご意見・ご要望がございましたら、事務局までお寄せください。

(事務局通信担当：五島敦子)

『大学史研究通信』第78号の編集は、事務局・五島敦子が担当いたしました。

連絡先：agoshima@nanzan-u.ac.jp

『大学史研究通信』第75号は、2014年8月31日発行予定です。

## 大学史研究会事務局

<事務局連絡先>

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1  
中央大学法学部 研究室受付 岡田大士気付 大学史研究会  
Tel & Fax: 042-674-3151 E-mail: daishi@home.nifty.jp  
ホームページ <http://daigakushi.jp/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします  
E-mail: jshshe@daigakushi.jp

## 大学史研究会事務局員 (五十音順)

浅沼 薫奈 (大東文化大学)	井上 美香子 (九州大学大学文書館百年史編集室)
岡田 大士 (中央大学)	五島 敦子 (南山大学短期大学部)
長谷部 圭彦 (駒澤大学等)	深野 政之 (大阪府立大学)
山崎 慎一 (桜美林大学)	